

須磨海浜水族園 亀ちゃんの

あっぱれ!

水の動物たち



動物の夫婦関係

須磨海浜水族園のある宴席での会話である。ペンギンを担当するN君とイルカチームを率いるF課長と一緒に飲んでいた時のことだ。N君夫婦は数年前に結婚し、育児の真っ最中である。F課長も結婚生活に関する限りベテランの域に入る。

耐ハイを飲んでいるN君、ビールを飲んでるF課長と、家族の大切さの話になった。動物の飼育を担当している職員の仕事は昼だけではない。夜も担当の動物の記録をつけたり、勉強したりで、結構帰りが遅くなる。その分、家族に対するケアがおろそかになる。そんな話になると、つつい夫婦を円満に維持することの大変さに話が及んでしまう。

夫婦といえは動物でも存在する。N君が担当するマゼランペンギンの夫婦はすばらしい。とにかく一度夫婦となり卵を産む



育児の形が絆の強さ

と、その夫婦は翌年も、翌々年も続き、ずっと同じペアで繁殖を繰り返す。仲の良い理想的な夫婦形態をとるのである。しかし、須磨海浜水族園で飼育されているバンドウイルカは違う。あまり、夫婦を重視しないのである。ある年に繁殖したペアとは全く違うペアで翌年繁殖したりする。夫婦関係が強くなくと、毎年、変わることが多い。

誰しも思うことなのだが、ペンギンよりはイルカの方が賢い。賢い動物が夫婦関係の絆が弱いというのも、そのまま人に当てはめてしまえばよろしくない。でも、なぜペンギンの夫婦の絆は強いのであろうか？ N君はすかさずつぶやいた。「それは、子どもを育てるのが、

その夫婦しかいないからですよ。だから、一度でも産卵に成功すると、次の繁殖もその夫婦で行って、より確実に子どもを残せるからだと違いますか？」なるほど、確かにそれは言える。ペンギンは産卵すると夫婦2羽で卵を温め、ふ化すると夫婦が交代で餌を取りに行き、口移しでヒナに与える。子育ての観点から少しも問題があれば、子どもの生残率は下がる。それはペンギンにとって由々しき問題であり、繁殖を保障するために、同じペアを維持する理屈はわかる。

でも、イルカはどうなんだろう。か。賢いイルカの夫婦はなぜその絆が弱いのだろうか。ペンギンの話のあとだったので、F

人間の離婚率も高くなってきているらしい。その原因については、いろいろ言われているが、さすがに夫婦で子育てしなくても育つ時代になったから、などということは言えない。でも、ひょっとすると社会保障が進み、夫婦関係が崩壊しても子どもは育つような時代だからかもしれない。そんなことをブツクサ言いながら飲んでいる横を、今度、結婚するよううわさのあるT君が通りかかった。彼は……。予想できないところが、人間の面白さである。

〓 次回は11月8日



バンドウイルカの雄のカイリ(奥)と雌のマミー。仲が良くそっぴに見えるが、夫婦関係はつついやすい。F課長撮影



亀崎直樹 (かめざき・なおき)

1956年生まれ。神戸市立須磨海浜水族園学術研究統括。元園長。岡山理科大学生物地球学部教授。専門はウミガメを中心とした海洋生物学。